
私は誰を頼ればいいの？

カサキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私は誰を頼ればいいの？

【Nコード】

N9199L

【作者名】

カサキ

【あらすじ】

灰原哀は組織から逃れるために、工藤新一を頼りに来た。だけど、彼の周りの人と関わるようになると本当に誰を頼ればいいのか解らなくなってしまうた

プロローグ

私は灰原哀……これは仮の名で本名は宮野志保……でも、私は組織の人間でコードネームはシェリーと呼ばれていた

組織にお姉ちゃんを殺されて、工藤君が飲まされた薬を飲み組織から逃げてきた

私は雨の中、工藤君を頼りに歩いていたが、工藤君の家の前で倒れて阿笠博士に拾われた

それからは工藤君と同じ小学校に通って組織の目から逃れようとしている

だけど、組織の匂いや気配を感じるたびに怯えてしまう

私は工藤君を頼りしてきた。だけど、今はたくさんの人に守られている

最初に私を拾ってくれた阿笠博士

私と工藤君の正体を知る一人で、居候している家主でもある

次に私と同じ境遇の工藤君

彼も私の正体を知っているより、私から教えた

彼には今までに、たくさん守られた
どんな時も私を守ろうとしてくれた
頼りぱっなしだけど、これからも頼っていいのか？分からないわ

次に工藤君の幼なじみの蘭さん
工藤君との時間を奪ってしまった
だから、私を罪悪感から逃げてきた
だけど、彼女は強い。彼の帰りを今も待っている

次に蘭さんの親友の園子さん
彼女とはあまり関わりはない
だけど、必死に蘭さんを励ましている

次に少年探偵団の3人
吉田さん、円谷君、小嶋君の3人は好奇心旺盛で苦労ばかり
だけど、頼りになるときもある小さな勇者達

次に大阪の探偵の幼なじみの遠山さん
園子さんと同じであまり関わりはない
だけど、蘭さんのように敵をおそれずに向かう一面もある強い子

最後に大阪の探偵の服部君
彼も私と工藤君の正体を知る一人
彼は工藤君の正体に気づいたため、私の正体を知らせることになった
彼も工藤君と同じで私達を守ろうとしてくれる

この9人の中で私は誰を頼ればいいの？

ねえ……教えて

博士が頼り？

私にとって頼りになるのは博士なの？

博士は、私が組織から逃げてきた時に工藤君の家の前で倒れていた所を助けてくれた

博士に部屋をもらった、しかも地下室をもらった

博士には、工藤君と一緒に行動したらいいと言ってくれた

確かに私は工藤君を頼りに来たものの、一緒に行動すると余計に危険性が高まると思っていた

だけど、博士が言ったように私は安心して生活をできていた

けど、博士は私に直接的に守ろうとしていない

いつも、間接的に守られてばかり、博士にも直接的に守られたい

けど、年齢的に考えれば無理に近い

博士は頼るより、頼られていることが多い。食事などの家事は博士より私がしている

このため、博士に頼ることはないと思っただ

博士が頼り？（後書き）

次回も頑張つて書きます

これからもよろしくお願いします

工藤君が頼り？

私が今まで一番頼りにしている工藤君

だけど、いつまでも頼りにしていいのか解らなくなってしまった

彼は頼っても構わないと言ってくれる。だけど、本当に……？

工藤君には、組織に追われて諦めかけたときに救ってくれた

私は工藤君を巻き込みたくなかった。だけど、彼は私が危険になるといつも助けに来てくれる

私は工藤君に頼りきっていることに情けなく思う

だけど、私は殺されることを恐れてはいない

でも、彼は生きる希望を与えてくれる

光へ導いてくれる彼にこれからも頼っていいのか解らない

工藤君が頼り？（後書き）

次回も頑張つて書きます

これからもよろしくお願いします

蘭さんと園子さんが頼り？

工藤君の幼なじみの蘭さんと園子さんの2人に頼ってもいいの？

最初に蘭さんを頼りにしていいの？

私は彼女から彼（工藤君）との時間を奪ってしまった

彼女は居候している江戸川コナンが工藤新一だと何回も疑った

そのたびに蘭さんを工藤君と一緒に誤魔化してきた

私は彼女に一度だけ助けられた。その時の彼女はまるで私のお姉ちゃんみたいによしかった

そんな彼女を私は頼ってもいいの？

彼女は優しく、明るく、強い子の蘭さんを私は頼ってもいいの？

次に蘭さんの親友の園子さんとはあまり関わりがない

園子さんはお嬢さまみたいだけど、あまりお嬢さまとは思えない
言動や行動を取っている

でも、彼女は蘭さんと同じで私に優しく接してくれる

彼女は頼るよりも、一緒に立ち向かいたい気持ちがある

私はこの2人を頼ればいいの？

工藤君の幼なじみの彼女とその親友を頼ってもいいの？

蘭さんと園子さんが頼り？（後書き）

次回も頑張って書きます

これからもよろしくお願いします

少年探偵団が頼り？

吉田さん・円谷君・小嶋君の3人はまだ小学生

最初に小嶋君は大きな体が特徴の少年

小嶋君は誰よりも気持ちの強い子

だけど、体格に似合わずに怖がりな一面がある

でも、彼は怖がりながらも立ち向かう勇氣がある

次に円谷君は細身の体格とそばかすの少年

彼は私と吉田さんのために夏休みになると毎週日曜には、ホテルを探しに行ってくれた

彼は礼儀正しく、優しさが溢れている

この3人の中では一番頼りになる子だと思う

だけど、彼も怖がりな面もあるが小嶋君程ではない

最後に吉田さんは元気で明るくて、涙もろいが強い子

彼女は誰に対しても明るく接してくる優しい女の子

彼女の可愛い笑顔には誰もが惹かれてしまう

だけど、工藤君にとっては何にも効果がなかった

私は吉田さんに言葉で助けられた

『逃げていては勝てない』この言葉が工藤君やみんなと一緒に生活や工藤君と一緒に組織に立ち向かう勇気をくれた

私はこの3人に頼るよりかは私が守りたいという思いがある

少年探偵団が頼り？（後書き）

次回も頑張って書きます

これからもよろしくお願いします

遠山さん・服部君が頼り？

大阪の2人組に頼ってもいいの？

最初に遠山さんは工藤君の幼なじみと同じで、服部君の幼なじみ

彼女とはあまり関わりがない

だけど、蘭さんと同じように根は強い子

彼女は、服部君についてくる時と置いて行かれる時がある

彼女は蘭さんとは違い、服部君と感情のぶつけ合いをしているときの彼女は怖いと少し思う

次に工藤君と同じ探偵の服部君

彼は工藤君と違い、推理で勝負しようとするものがあつた

工藤君の一言でそれはなくなりつつあるものの、勝負にこだわるタイプ
の探偵

服部君に私は助けられたことや守られたことは無いが、間接的に工藤君と一緒に助けられた

でも、頼りにできない訳ではない
だけど、彼と工藤君は何かが違う

こんな2人を私は頼ってもいいのか？

遠山さん・服部君が頼り？（後書き）

次回も頑張って書きます

これからもよろしくお願いします

工藤君だけが頼り！

これまでいろんな人について考えてきたけど、そこで思ったのは直接的に守ってもらったのは、工藤君しかいなかった

博士からは自分の生活の確保をしてくれた

その他の人には間接的に守ってもらったり、助け合ったりしていることが多かった

工藤君とは同じ境遇になっているだけで、守られていると思っていた

けど、だんだん彼に惹かれていく自分に戸惑いが生じ、彼を避けるようになっていた

彼は私が避けていても、全く気にする様子は見られなかった

彼は恋愛に関しては鈍感だったことを蘭さんとのやり取りで分かった

私は彼と一緒になれない、彼は優しく可愛い彼女と一緒にいるはず

だけど、この姿だけでもいいから彼のそばにいたい

私は彼しか頼りたくないと思った

彼は私のそばにずっといてくれるの？

それとも、蘭さんの元に帰るの？

やっぱり、蘭さんの元に帰るのが当たり前よね？

でも、彼に蘭さんの元へ帰って欲しくない

私と一緒にいて欲しい

お願い……工藤君……私を選んで

私には工藤君だけが頼りなのよ？お願い……私をいつまでも守って

工藤君だけが頼り！（後書き）

次回も頑張って書きます

これからもよろしくお願いします

次回で完結です

告白（前書き）

これで完結です

告白

私が最も頼りにしているのが工藤君

今は私と同じで幼児化していて、私は『灰腹哀』彼（工藤君）は『江戸川コナン』の姿で生活している

私は江戸川コナンになった工藤君しか知らない

だけど、蘭さんは素の工藤君を知っている

それが悔しい。でも、私はこれからでも工藤君の素を知ればいいと博士は言ってくれた

私は今日、工藤君に私の思いを告げる

例え振られてもいいから、彼に思いだけでも告げたい

私は工藤君を博士の家に呼び、一緒に地下室に入った

「灰原、俺に何か用か？」

「ええ、大事な話よ」

「大事な話？……まさか！？」

「あなたの思ってる解毒剤の事ではないわ」

「そ、そうか」

「ええ」

しばらく沈黙が続いた

「灰原、大事な話ってなんだ？」

「それは……」

「言いづらい事か？」

「わ……くど……くん……す……の」

「えっ？なんて？」

「私、工藤君が好きなの」

「は……はい……はら」

コナンは哀の言葉に言葉を失ってしまった
哀はさらに続けた

「分かってるわ。あなたには蘭さんがいるものね」
「……………」

「でも、私は工藤君しか頼りにできないの」
そう言うと哀は涙を流した

「私には工藤君だけが頼りなのよ？好きなの」

「……………」

「ねえ、工藤君何か喋ってよ？」

哀は涙を流しながら、コナンに聞いた
すると、コナンは哀を抱き寄せて、抱き締めた
哀はコナンの行動に驚いて目を開いた

「灰原……好きだよ」

「えっ？」

今”好き”って聞こえた
間違いないわよね？

「俺も灰原……いや、志保が好きだよ。誰よりも」
「……工藤君」

今彼が私のことを”志保”って呼んでくれた
嬉しい……嬉しいよ
また涙が溢れてきた

彼は一呼吸置くと体を離した

「俺はいつまにか、志保のことが好きになってたんだ」

「でも、蘭さんは……」

「蘭は……恋愛の方の好きではないんだ」

「えっ？」

「家族愛のような気持ちなんだ」

「ほんとなの？」

「ああ、志保が好き……愛してる」

「私も、新一が好き……愛してるわ」

私はそう言つと彼に抱きついた
彼も抱き締めてくれた

彼のことを”新一”って呼べた唇を重ねた。何回も繰り返した

私は工藤君に思いを告げた、彼も私のことが好きって、愛してるって言ってくれた

嬉しいかった。これからは彼のそばにずっといられる

彼は蘭さんじゃなくて、私を選んでくれた
これからも守ってくれと小さく言ってくれた

私はこれからも工藤新一を頼りにして、そして彼女として一生彼のそばにいられるように願います

これからもよろしくね？新一
（ああ、こちらこそ、よろしくな。志保）
新一の声が聞こえた気がした

告白（後書き）

完結しました

感想などをよろしくお願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9199/>

私は誰を頼ればいいの？

2010年10月11日18時00分発行